【平26年12月19日訂正】

平成２５年度における児童生徒の問題行動等に関する調査（宮城県分）の結果について

◇文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」による〔平成26年12月19日公表〕

１　調査の趣旨

児童生徒の問題行動等について，全国の状況を調査・分析することにより，教育現場における生徒指導上の取組のより一層の充実に資するとともに，児童生徒の問題行動の未然防止，早期発見・早期対応に繋げていくものとする。

２　調査対象期間

平成２５年４月１日～平成２６年３月３１日

３　調査対象（平成２５年５月１日現在）

○　仙台市を含む国公私立小・中学校・高等学校及び中等教育学校，特別支援学校在籍児童生徒
○　小学校419校（児童数122,447人）
○　中学校218校（生徒数65,401人）
○　高等学校103校（生徒数63,515人）
○　特別支援学校21校（児童・生徒数2,103人）
◎　高等学校の「暴力行為」「いじめ」「中途退学」については，今回から新たに通信制課程も調査対象になっている。

４　調査結果の概要

（１）　暴力行為

中学校の暴力行為の増加は，内陸部の一部中学校における器物損壊の増加が影響している。一方，小学校では，対教師暴力，生徒間暴力，対人暴力のいずれもが減少している。

① 暴力行為発生件数

○　小学校における暴力行為の発生件数は90件で，前年度より33件減少した。
○　中学校における暴力行為の発生件数は821件で，前年度より117件増加した。
○　高等学校における暴力行為の発生件数は173件（通信制課程は0件）で，前年度より1件増加した。

② 暴力行為発生学校数

○　小学校43校（14校減少），中学校143校（14校減少），高等学校66校（8校減少）である。
※カッコ内は昨年度との比較。以下同じ。

③ 形態別発生状況

校種 / 種別	小学校（件）			中学校（件）			高等学校（件）		
	発生件数		前年度比較	発生件数		前年度比較	発生件数		前年度比較
	H25	H24		H25	H24		H25	H24	
対教師暴力	15	20	−5	80	79	+1	12	9	+3
生徒間暴力	38	70	−32	432	421	+11	99	124	−25
対人暴力	1	3	−2	12	25	−13	9	3	+6
器物損壊	36	30	+6	297	179	+118	53	36	+17
計	90	123	−33	821	704	+117	173	172	+1

④ 加害児童生徒数

○　小学校81人（78人減少），中学校703人（93人減少），高等学校193人（34人減少）である。

（２） いじめ

いじめ認知件数の増加は，各種研修をとおして教職員のいじめに対する意識が向上したことや複数回のアンケート調査の実施，日常のきめ細かな観察等によって，軽微ないじめも積極的に取り上げて対応してきたことによる。

① いじめ認知件数

○　小学校におけるいじめの認知件数は14,478件で，前年度より6,101件増加した。
○　中学校におけるいじめの認知件数は2,741件で，前年度より757件増加した。
○　高等学校におけるいじめの認知件数は340件（通信制課程は0件）で，前年度より15件増加した。
○　特別支援学校におけるいじめの認知件数は8件で，前年度より5件減少した。
○　いじめの解消率は小学校99.4%（全国98.2%），中学校95.6%（全国96.4%），高等学校93.5%（全国95.6%），特別支援学校75.0%（全国96.8%）である。

② いじめの認知校数

○　小学校241校（15校減少），中学校162校（10校減少），高等学校63校（14校減少），特別支援学校2校（3校減少）である。

③ いじめの態様

○　小・中・高等・特別支援学校ともに，いじめの態様で一番多いのは「冷やかしやからかい等」で，小学校で約47%，中学校で約70%，高等学校で55%，特別支援学校で約38%となっており，２番目に多いのは，小・中学校，特別支援学校で「軽くぶつかられたり，叩かれたり等」で，小学校で約32%，中学校で約25%，特別支援学校で25%であり，高等学校では「仲間はずれ，集団による無視」で約22%となっている。
○「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷等」が中学校で４番目，高等学校では３番目に多くなっている。

（小学校）

	種　　別	認知件数(件)	割合(%)
1	冷やかしやからかい等	6,878	47.3
2	軽くぶつかられたり，叩かれたり等	4,688	32.3
3	仲間はずれ，集団による無視	4,034	27.8
4	金品をかくされたり壊されたり等	2,203	15.2
5	嫌なことや恥ずかしいこと等	1,658	11.4

（複数回答・上位５件）

（中学校）

	種　　別	認知件数(件)	割合(%)
1	冷やかしやからかい等	1,906	69.5
2	軽くぶつかられたり，叩かれたり等	675	24.6
3	仲間はずれ，集団による無視	645	23.5
4	パソコンや携帯電話等で誹謗中傷等	202	7.4
5	ひどくぶつかられたり，叩かれたり等	154	5.6

（複数回答・上位５件）

（高等学校）

	種　　別	認知件数(件)	割合(%)
1	冷やかしやからかい等	187	55.0
2	仲間はずれ，集団による無視	75	22.1
3	パソコンや携帯電話等で誹謗中傷等	55	16.2
4	軽くぶつかられたり，叩かれたり等	39	11.5
5	ひどくぶつかられたり，叩かれたり等	28	8.2

（複数回答・上位５件）

（特別支援学校）

	種　　別	認知件数(件)	割合(%)
1	冷やかしやからかい等	3	37.5
2	軽くぶつかられたり，叩かれたり等	2	25.0
2	嫌なことや恥ずかしいこと等	2	25.0

（複数回答・上位３件）

（３） 不登校

高等学校の不登校生徒数は減少しているが，小学校・中学校の不登校児童生徒数はやや増加している。しかし，小・中・高等学校ともに再登校率は全国値を上回っている。

① 不登校児童生徒数

○ 小学校における不登校児童数は490人（出現率0.40%）で，前年度より35人増加した。

○ 中学校における不登校生徒数は2,070人（出現率3.17%）で，前年度より14人増加した。

○ 高等学校における不登校生徒数は1,404人（出現率2.27%）で，前年度より59人減少した。

○ 再登校率は小学校39.3%（全国32.9%），中学校32.0%（全国29.8%），高等学校37.8%（全国34.2%）である。

② 不登校児童生徒在籍校数

○ 小学校190校（3校増加），中学校180校（29校減少），高等学校98校（１校減少）

③ 不登校のきっかけ

○ 小学校においては「不安など情緒的混乱」が最も多く，次いで「親子関係をめぐる問題」，中学校においては「無気力」が最も多く，次いで「いじめを除く友人関係をめぐる問題」，高等学校では「無気力」が最も多く，次いで「不安など情緒的混乱」となっている。

（小学校）

	不登校のきっかけと考えられる状況	割合(%)
1	不安など情緒的混乱	18.1
2	親子関係をめぐる問題	15.5
3	無気力	11.7
4	いじめを除く友人関係をめぐる問題	10.0
5	家庭の生活環境の急激な変化	8.7
	いじめ	1.3

（複数回答・上位５件）

（中学校）

	不登校のきっかけと考えられる状況	割合(%)
1	無気力	17.5
2	いじめを除く友人関係をめぐる問題	16.2
3	不安など情緒的混乱	11.3
4	学業の不振	9.2
5	親子関係をめぐる問題	8.1
	いじめ	1.7

（複数回答・上位５件）

（高等学校）

	不登校のきっかけと考えられる状況	割合(%)
1	無気力	26.1
2	不安など情緒的混乱	17.9
3	いじめを除く友人関係をめぐる問題	10.8
4	病気による欠席	8.7
5	あそび・非行	7.4
	いじめ	0.3

（複数回答・上位５件）

（４）高等学校中途退学

高等学校の中途退学者数は，通信制課程も調査対象となったため，全国と同様に増加した。

① 中途退学者数

○ 高等学校の中途退学者数は1,242人で，30人増加した。

○ 通信制課程を除いた中途退学者数は1,078人で，134人減少した。

② 中途退学率

○ 中途退学率は2.0%で，0.1ポイント増加した。

○ 通信制課程を除いた中途退学率は1.7%で，0.2ポイント減少した。

③ 中途退学の事由

○「学校生活・学業不適応」を事由とした中途退学者の割合は39.4%で前年度より3.3ポイント減少。

○「進路変更」を事由とした中途退学者の割合は，28.6%で前年度より0.2ポイント増加。

5　県教委としての対応

今回の調査結果については，震災後３年目の小・中・高等学校，特別支援学校等の問題行動等の状況を示すものである。小学校の暴力行為，高等学校の不登校は減少したものの，全体的には暴力行為・いじめ・不登校ともに増加している。

これらの問題については，東日本大震災以前からの課題であったが，更に大きな課題として解決に向けて全力で取り組まなければならない。全ての児童生徒が「行きたくなる学校」づくりを目指し，以下の取組を進めていく。

①「志教育」の推進と授業の充実

② 問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織体制の一層の整備

③ 特に問題を抱えた学校への県教委からの積極的な支援